

Q これからの図書館

もちだ
持田 靖明 議員



A 図書館を好きな場所になつていただく

問 図書館の現状について。

答 利用者及び入館者の数は、新型コロナウイルス感染症拡大前の数に戻りつつある。

問 今後は、入館者数を重要視していくのか。

答 中央図書館では、新聞や雑誌の閲覧、資料を見ながら時間を過ごす方が増えている。気軽に集える交流空間を目指し、子ども連れの家族にとっても、図

書館が好きな場所になるよう取り組んでいく。

問 電子図書は増えていくのか。

答 貸出用の電子図書は高額とまっている。今後、普及は見込まれるが、紙と電子の状況を踏まえ、バランスよく考えて、市民ニーズに合った良いものが購入できるよう努力する。

問 ICTタグを利用した図書の貸出し効果について。



鶴ヶ島市中央図書館

Q 介護BCPの状況について

まつお たかひこ
松尾 孝彦 議員



A 完了できるよう支援する

答 図書の貸出手続きが非常に簡便になり、業務の効率化やセキュリティ強化のほか、感染症対策としての利点もある。費用対効果も含めた導入効果について、検討を進めている。

問 図書館分室へ足を運んでもらうための取組は。

答 地域で身軽に立ち寄り、くつろげる空間、気軽に立ち寄って本を手にする、といった環境づくりを考えていきたい。

問 本市における介護BCPの作成状況について。

答 現時点の策定状況は、新型コロナウイルス感染症用の計画は、策定済みが5か所、今年度中に策定予定が10か所、残りの26か所は令和5年度中に策定予定である。自然災害用の計画は、策定済みが4か所、今年度中に策定予定が11か所、残りの26か所は5年度中に策定予定である。

問 今後の取組と課題は。

答 コロナ禍において、介護職員は利用者へのサービス提供のほか、感染防止対策への対応など業務量が増加しているため、BCP策定に職員が関われない



状況にある。国では、新型コロナウイルス感染症用と自然災害用の業務継続ガイドラインを作成するとともに、入所系、訪問系、通所系とサービスの類型ごとに参考ひな型を用意するなど支援している。市では、介護事業者への実地指導などの際に策定状況を確認しつつ、策定期限までに全事業者が完了できるよう支援していく。

◎その他の質問

一 成年年齢引き下げに関連した消費トラブルについて

二 デジタル田園都市構想への対応について